

地方創生先行型交付金事業検証用シート

交付金事業名	地元産品育成・PR事業
事業名	② とわだ産品推進戦略事業
担当課	とわだ産品販売戦略課

事業概要

○買ってもらえる商品づくり事業
 新商品の開発やブラッシュアップ等への専門家のアドバイスを行うとともに、商品開発及び加工機械導入に対し補助した。

○地産地消推進事業
 市内保育園児、幼稚園児、小学生及び中学生並びに保護者に地元食材をPRし、地産地消に対する関心を高めるため、地元食材を提供した。

○とわだ米粉ROAD実現事業
 米粉消費拡大に向け、米粉サンプル提供やレシピ集作成などを実施した。

KPI（重要業績評価指標）の進捗状況

KPI (重要業績評価指標)	平成27年度 目標値	平成27年度 実績値	平成27年度の 進捗状況
地元農産物加工品 開発取組中の件数	15件	24件	達成

総合戦略上の位置づけ

基本目標	具体的な施策・事業		
1 地域における安定した雇用を創出する	1-1-1 農畜産物など高品質なとわだ産品の「ブランド力」の更なる向上 <ul style="list-style-type: none"> ・地元農産物、加工品販売「市」の開催 ・地域内連携による6次産業化支援事業 		
総合戦略上のKPI (重要業績評価指標)	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)	
「六次産業化・地産地消法」に基づく 総合化事業計画認定事業者数	3件	8件	

先行型交付金事業の進捗の分析・今後の展望

【平成27年度 達成率】160%
 【方向性】引き続き、商品開発への取組み支援を行う。

【今後の展望】

- 活用事業者を更に増加させて商品開発への取組みを一層活発化させる。
 製造業者・加工事業・販売業者など地域内における事業者間連携を推進する。
- 地元食材を活用したバイキング給食を通じ、地元食材の特徴や魅力を伝えて、十和田産品の拡充を促す。

買ってもらえる商品づくり支援事業

1. これまでの実績

	アドバイス 支援事業	メイドインとわだ加工振興対策事業（ハード）	とわだ逸品販売ビジネス支援事業（ソフト） 既存商品ブラッシュアップ、パッケージ作成 など
H25 年度	13 事業者	6 事業者 脱脂大豆粉製粉機（丸井精米工場） ミートチョッパー他（森田観光物産） トップシール機（十美商事） 真空包装機他（企業組合ノエル） 小龍包専用鍋ほか（大関優花） シュリンク機器（JA 十和田おいらせ）	6 事業者 ●新商品 丸井精米工場「飲む大豆粉」「十和田の米粉からあげ粉」 もりた観光物産「十和田湖わかさぎ甘露煮、ふき煮、なめこなんばん」 十美商事「切りごぼう」小分け・業務用 企業組合ノエル「ピクルス」他 大関優花「十和田焼き小龍包」 ●ブラッシュアップ商品 大竹菓子舗「とろ生ショコラサンド」
H26 年度	11 事業者	5 事業者 真空包装機他（小原工業） にんにく皮むき機他（十美商事） 乾燥機他（中善農園） 急速冷凍機（レークイン十和田） 急速冷凍機他（もりた観光物産）	11 事業者 ●新商品 小原工業「あおもり林檎と山葡萄ドレッシング」ほか2品 かーでんツツリ垂穂「十和田ごぼうビーフシチュー」 中こう「深持りんごジャム」、「深持ブルーベリー 50%果汁」 小関麵興商事「十和田にんにくラーメン」、「バラ焼きそば」 中善農園「はちみつ山ぶどう」ほか2品 もりた観光物産「ひめます塩焼」ほか2品 伝法川魚店「十和田湖ひめますスープカレー」、「十和田湖ひめます 具だくさん汁」 十美商事「十和田にんにくカレー」ほか2品 大竹菓子舗「低糖質ラボ」シリーズ ●ブラッシュアップ商品 中こう「深持りんごジュース」、「深持ブルーベリージャム」 中善農園「山葡萄原液」 レークイン十和田「わかさぎこうじなんばん仕込み」

	アドバイス 支援事業	加工・販売支援事業（ハード・ソフト） 機械設備導入、既存商品ブラッシュアップ、パッケージ作成 など	
H27 年度	13 事業者	ハード（機械設備導入など）	ソフト（既存商品ブラッシュアップ、パッケージ作成 など）
		ごぼうカット機（(有)十美商事） 乾燥機ほか（伝法川魚店） 急速冷凍庫ほか（点心工房） 加工施設（中善農園）	●新商品 (有)十美商事「(業務用) カットごぼう」 十和田湖畔農園「まんまさ」、「山菜水煮」、「たけのこ山椒漬け」、 「ふきの水煮」 ガーデンキッチン垂穂「十和田ごぼう牛めしの素」 伝法川魚店「ひめますバターせんべい」、「リフトとば3種」 点心工房「子豚まん」、「パンダまん」、「金の肉まん」 中善農園「乾燥野菜（小松菜、山東菜）」 (株)レクイン十和田「こうじなんばんみそだれ」、 「こうじなんばんみそだれ」 (株)大竹菓子舗「青森の魔女の米粉クッキープリ」 (株)小原工業「あおもり林檎と姫トマトドレッシング」 計19商品 ●ブラッシュアップ商品 有)小関麵興商事「十和田にんにく冷麺」 ガーデンキッチン垂穂「十和田ごぼうチョコレートクッキー」 赤沼営農組合「黒豆みそ」 (株)レクイン十和田「こうじなんばん」 (株)小原工業「香美塩（簡易包装タイプ）」 計 5商品

2. 成果と検証

○開発商品の受賞など

- (株)大竹菓子舗の「とろ生ショコラサンド」（ブラッシュアップ商品）は、改良前と比較すると約20倍売上が伸びているほか、平成25年12月に開催されたご当地スイーツ選手権（イオンレイクタウン越谷）でも1位を獲得している。（同社の受賞は2年連続の快挙）
- JA 十和田おいらせ プレミアムニンニクパウダーは、平成26年度青森県特産品コンクールで最高賞である県知事賞を受賞。その後、青森大勝軒とのコラボ商品を販売。



販売実績は H26 年度、月平均 30 万円強なのに対し、H27 年度は月平均 70 万円強と大幅な売上増。

- ガーデンキッチン垂直の「十和田ごぼう牛めしの素」は、平成28年度青森県畜産品コンクール県農林水産部長賞を受賞
- 事業利用者は専門性の高いアドバイスにより、ブラッシュアップ前より十数倍の売上を上げている商品や、コンクールで受賞するなど質の高い商品が生まれている。
- 商品開発における基礎的な考え方を学び、自社ブランドの構築等に対する意識が高まるなど、取組事業者の人材育成の面でも大きく貢献する取組となっている。
- 地域内の一次・二次産業の連携による展開が見られるようになった。(小関麵興と JA 十和田おいらせのコラボ商品など)

3. 課題

- 原価計算などの基礎的な経営力を身につけさせるための綿密なアドバイスが必要。
- 事業者の売上向上に大きく貢献していることから、事業の人気・需要度が高く、活用事業者が増えてきているが、それに対応できるだけのアドバイザーの人員が不足している。

4. 平成28年度事業の内容

上記の課題を解決して、より質の高い売れる商品づくりへの支援を行う。

①買ってもらえる商品づくり支援事業【継続】

- 人材、地域資源の活かし方や素材の掘り起し、事業者交流のためのセミナーの開催（継続）
- 専門家によるアドバイス
平成28年度はサブアドバイザーを配置して事業者へのフォローアップを充実させる。(拡充)
- 市のHPやイベント等での情報発信、お披露目会の実施（継続）

②加工・販売支援事業費補助

- 商品の製造に必要な機械導入、施設整備に対する助成及びマーケティング活動に係る旅費、試作品外注加工費、試験分析手数料、パッケージ・ラベル製作に係る経費などに対する助成（継続）

地産地消推進事業・とわだ米粉 ROAD 実現事業

※平成28年度からとわだ米粉 ROAD 実現事業は地産地消推進事業に統合

1. これまでの実績

○とわだ育ち地産地消給食提供事業

- 十和田産食材の消費拡大と食育を目的とした、学校給食（バイキング給食）への食材提供、市内保育園・幼稚園への食材提供
 - ・市内小中学校バイキング給食への食材提供（H27：11回、H26：12回、H25：11回）
 - ・市内保育園・幼稚園への食材提供（H27：3回、H26：4回、H25：2回）

○サンプル米粉提供事業（平成 22～27 年度）

	事業者用（商品化向け）	普及活動用（料理教室等）	合 計	備 考
平成 26 年度	6 件（22kg）	10 件（29kg）	16 件（51kg）	
平成 27 年度	0 件（0kg）	8 件（14kg）	8 件（14kg）	

○とわだ米粉サポーター養成講座の開催（H23、25 年度の 2 回 29 名）

○米粉料理コンクールの開催（H22～26 年度計 5 回）

○米粉普及キャンペーン（H26 年度～）

○米粉レシピ集&食べ歩きマップの作成（H24、25 年度の 2 回）

	作成部数	H27.10 月末残部数	設置場所等
Vol.1（H24.11 月）	3,500 部	0 部	市、公民館、文化センター、保健センター、道の駅、AST、スーパーカケモ、イオンスーパーセンター、米粉取り扱い店舗、食生活改善推進員、米粉サポーター、その他各イベントで配布
Vol.2（H26.3 月）	2,000 部	600 部	
Vol.3（H28.3 月）	2,000 部		

○「とわだ地産地消フェスタ」の開催

「買ってもらえる商品づくり支援事業」で誕生した商品や米粉関連商品を市民に周知し、食産業事業者と市民が直接交流する貴重な場であり、事業者が消費者の生の声を聴く機会となっている。また、高校生や食育推進団体等、さまざまな関連事業者が地産地消の取組を紹介する機会となっていた。

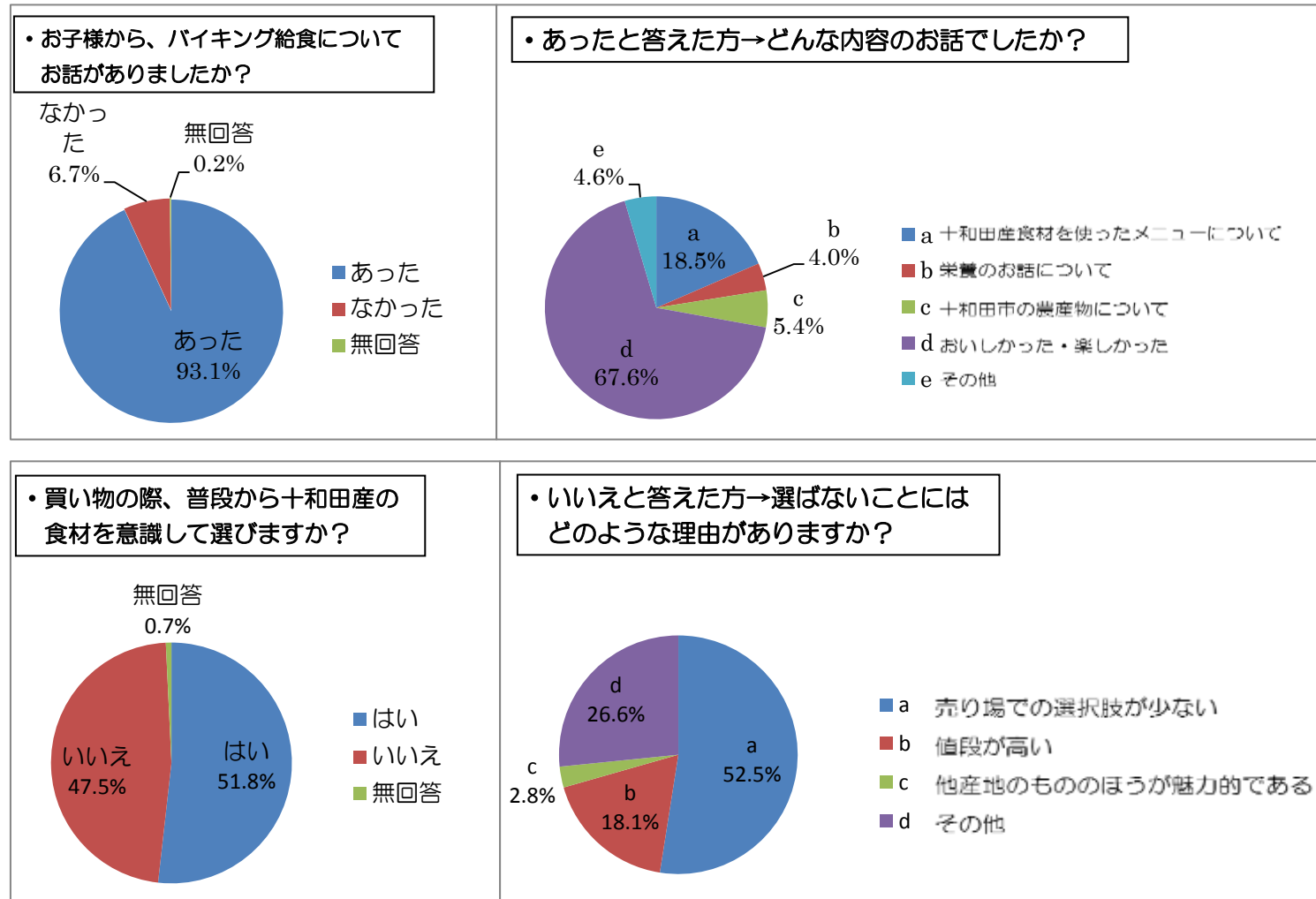
	出展者数	来場者数
H24	15 事業者	230 人
H25	15 事業者	265 人
H26	14 事業者	500 人
H27	※B-1 グランプリ in 十和田 併催イベント「十和田づくしフェア」として実施	

2. 成果と検証

○とわだ育ち地産地消給食提供事業

- ・バイキング給食では、生産者から農業に対する思いや農産物についての講話をいただいた。児童・生徒は、実際にその場で食べている十和田産食材についての説明を聞くことができるため、農業や農産物に興味を持ってもらう機会として有効であったと考えられる。また、児童・生徒、保護者へアンケートを実施することで、家庭においても十和田市の農産物等に関して会話してもらうためのきっかけとした。

保護者向けアンケートの回答状況



- 新聞、テレビなどのメディアで取り上げられることにより、家庭においても十和田産食材や農業について話題となることで地産地消意識の涵養につながっている。
- 保育園・幼稚園については、B-1 グランプリ in 十和田の開催に伴い、「十和田バラ焼き給食の日」として地元産食材を用いた十和田バラ焼きが市内全保育園の給食で一斉に提供された。一体感を持ってB-1 グランプリへの機運を高めてもらうとともに、子供たち、保護者に地産地消および農業への関心を深めてもらう機会とした。

修学旅行で十和田PR

東奥 南小6年、野菜など配布

十和田市の南小学校(属)は、今年10月に入修学旅行先の北田町(属)で修学旅行の準備会を行った。修学旅行の準備会では、南小6年生の代表者が、北田町の野菜などを配布し、北田町のPRを行った。南小6年生の代表者は、北田町の野菜などを配布し、北田町のPRを行った。南小6年生の代表者は、北田町の野菜などを配布し、北田町のPRを行った。



増産品PR陣結団式で、冒いの言葉を述べる(左から)杉田君、川村さん、小川さん

市内一斉バラ焼き給食

十和田市は、10月8日(木)から10日(土)まで、市内一斉バラ焼き給食を実施する。この給食は、バラ焼きの他に、カレーライス、味噌汁、漬物、デザートが盛り込まれている。この給食は、バラ焼きの他に、カレーライス、味噌汁、漬物、デザートが盛り込まれている。



バラ焼き食べて B-1楽しもう

大会日前市が給食提供

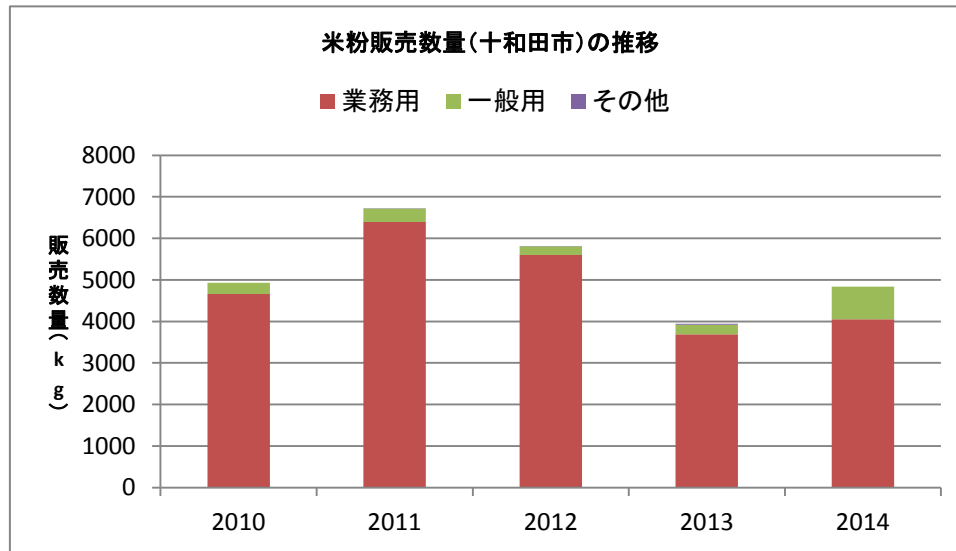
10月8日(木)から10日(土)まで、市内一斉バラ焼き給食を実施する。この給食は、バラ焼きの他に、カレーライス、味噌汁、漬物、デザートが盛り込まれている。この給食は、バラ焼きの他に、カレーライス、味噌汁、漬物、デザートが盛り込まれている。



市立南小(中)名園がバラ焼きの給食を堪能

〇米粉普及拡大事業(米粉ROAD実現事業)

- ・サンプル米粉提供は、これまでPTA や親子講座などの場で活用されており、一般消費者に対する普及・認知度向上に役立ってきた。また、菓子店・飲食店での米粉メニュー等の開発が展開されてきた。
- ・サンプル米粉提供へ新規に応募する団体、事業者が少なくなっている。
- ・米粉レシピ集&食べ歩きマップは公共施設への設置、市場まつりや地産地消フェスタ等各種イベントでの配布を行い、米粉の活用方法への関心を高めてきた。
- ・米粉料理コンクールは、全5回開催してきたがレシピ等が出尽くした感がある。



(販売数量については(有)丸井精米工場資料より)

3. 課題

- バイキング給食は対象学年が限られているため、小・中を通して1回しか体験できない生徒が多く、継続して行う必要がある。
- バイキング給食への食材提供によって、児童・生徒および保護者への地産地消に対する意識の浸透は図られるが、通常給食における十和田産食材の取扱量の増加には至っていない。
- とわだ米粉サポーターが育成され、米粉 ROAD マップなどの宣伝用資材もそろっているため、これらを活用した PR 活動を展開する必要がある。
- 米粉のPR活動等については、米粉単独ではなく他の十和田産食材とともに活用できる手法を PR することで、より効果的な活動を実施することができると考えられる。

4. 平成28年度事業の内容

①とわだ育ち地産地消給食提供事業(継続)

○市内小中学校のバイキング給食への食材提供と生産者との交流

- ・バイキング給食においては、食材や食事の栄養について栄養教諭から学ぶ時間が取られている。その機会を利用して地元産品の紹介と生産者との交流を行う。
- ・「日本一健康な土づくり」の取り組みや様々な十和田の農産物を紹介することで、子供たちに十和田産食材に興味を持ってもらいたい。

らい、さらに家庭での話題としてもらい地産地消の意識の浸透を図る。

○市内幼稚園・保育園の給食・おやつに対する十和田産食材の提供

- ・市内幼稚園・保育園全園に十和田産食材を提供することで、小さなころから地元農畜産物に触れてもらうとともに、保護者に対しても地産地消の推進を図る。

○家庭における地産地消意識の涵養と地元食材の情報提供

- ・給食やおやつへ十和田産食材を提供した際に、児童・生徒や保護者にアンケートを実施する。そのアンケートを子供と保護者が一緒に地産地消について考えるためのきっかけとしてもらう。
- ・アンケート等に寄せられた意見や手法をもとに、より多くの十和田産食材についての情報を発信する。

②とわだ米粉サポーターによる普及活動

○米粉商品の PR・消費拡大活動

- ・道の駅や市内スーパー、保育園及び幼稚園、イベント会場等においてとわだ米粉サポーターによる米粉の普及活動及び米粉商品の PR・消費拡大活動を行う。